

全国保育士会 新型コロナウイルス感染症への対応等に関する調査結果 (概要版)

- 令和2年5月末、保育所・認定こども園等における新型コロナウイルス感染症の対応に伴う影響等について、全国保育協議会協議員および全国保育士会委員等の関係者を対象に緊急のアンケート調査を実施した。
- その後、国の緊急事態宣言が全国的に解除されたが、7月、8月は、全国で数多くの感染報告・確認がされるに至り、これまでなかったクラスターの発生も確認されている。
- 新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する現状を踏まえて、全国の対応状況や課題等に関する実態調査の第2弾を実施した。



新型コロナウイルス感染症への対応等に関する調査

1. 調査対象

全国保育士会委員および、都道府県・指定都市保育士会の常任委員等の役員

2. 調査期間

令和2年9月23日（水）～10月7日（水）

3. 回答数・回答率

回答数 289 回答率 54.3%

4. 回答者の状況

運営主体：社会福祉法人60%、市区町村37%、その他（学校法人、宗教法人、株式会社等）3%

業態：認可保育所77%、認定こども園（幼保連携型）19%、認定こども園（保育所型）3%、地域型保育所（小規模保育事業）1%、その他1%

属性：施設長66%、主任保育士・主幹保育教諭28%、保育士・保育教諭5%、その他（副園長、副所長等）6%

新型コロナウイルス感染症が保育の現場等に与えている影響に関する調査の内容 (全国保育士会)

I. 基本情報（回答者の状況）

II. コロナ禍における新たな保育実践等に関する事項

III. コロナ禍における感染症対策に関する事項

IV. 新型コロナウイルス感染症への対応と経験が保育士等にもたらした効果に関する事項

V. 行事に関する事項

VI. 虐待に関する事項

VII. 貧困に関する事項

VIII. 子どもの変化に関する事項

IX. 保育者の心身への影響に関する事項

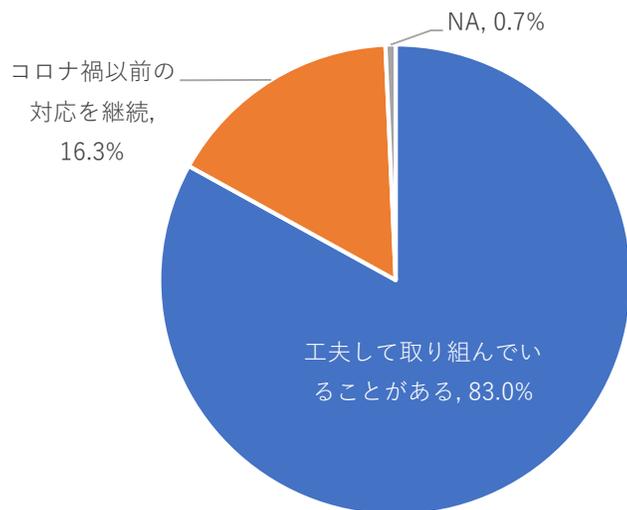
X. 学習機会の確保に関する事項

XI. 実習生の受け入れに関する事項

Ⅱ. コロナ禍における新たな保育実践等に関する事項

1. 保育の専門性を発揮するために、子どもの遊びや生活の場面で工夫して取り組んでいることの有無

※「工夫して取り組んでいることがある」（n = 240）の回答の自由記述回答より



成功している、もしくは特徴的な取り組み内容

■ 遊び等の活動や環境整備に関する取り組み

- ・活動を少人数のグループに分けたり、コーナー遊び等を導入して1人1人の主体性を重視する等、一斉の活動を避ける取り組みが複数みられた。
- ・園庭で遊ぶ時間をクラスごとに分けたり、時間を長くするなど、室内での密集を避ける取り組みもみられた。

■ 食事の場面の取り組み

- ・クラス内で食べ始めの時間を分けたり、机1台あたりの席数の制限、複数の部屋を使用して食べる等の回答がみられた。
- ・食事指導のために、保育者の「カミカミ」「もぐもぐ」の口元が見えるようにフェイスシールドを使用している取り組みもみられた。

■ その他、生活上の感染防止の取り組み

- ・手洗いの習慣を替え歌で身につける取り組みや、ソーシャルディスタンスを意識できるような言葉かけや視覚的な工夫の取り組みがみられた。
- ・水分補給を使い捨ての紙コップを使用することや、1人1人専用の机を用意する等の設備面の取り組みもみられた。

Ⅱ. コロナ禍における新たな保育実践等に関する事項

1.保育の専門性を発揮するために、子どもの遊びや生活の場面で工夫して取り組んでいることの有無

取り組みにおける課題や対応

■ 子どもへの影響

- ・子ども同士のふれあいの制限や地域の人々との交流の中止等により、成長への不安を感じている回答が多くみられた。
- ・活動の制限により、遊びのマンネリ化や体力維持への影響といった回答もみられた。

■ 保育者の負担増、人材不足

- ・分散した活動や新しい取り組みのための準備により、保育者の負担増や人材不足が生じているとの回答が多くみられた。

■ 設備

- ・ICTを活用した取り組みを進めるにあたり、機材が不足している等の回答がみられた。
- ・新たな備品等の導入のためコストがかかるとの回答もみられた。

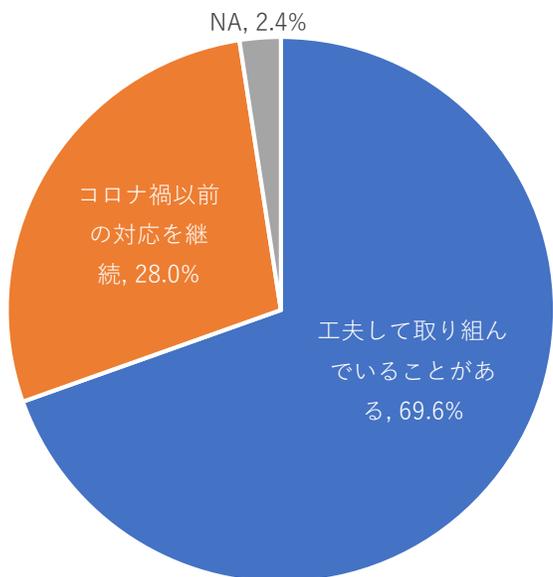
■ 感染防止の限界

- ・保育者と子ども、子ども同士の接触は、愛着や信頼関係の形成のために欠かせないものであり、完全に避けることは困難であるとの回答が複数みられた。
- ・雨天時や冬季は室内の活動が多くなり、接触が多くならざるを得ないとの回答もみられた。

Ⅱ. コロナ禍における新たな保育実践等に関する事項

2.子どもの様子に関する保護者への情報発信について工夫して取り組んでいることの有無

※「工夫して取り組んでいることがある」（n = 201）の回答の自由記述回答より



成功している、もしくは特徴的な取り組み内容

■ ICTの活用

- ・動画の配信やSNS（LINE、Facebook等）、ホームページ等を使用して、子どもの様子や情報を発信する取り組みが多くみられた。
- ・面談等をリモートで実施しているとの回答もみられた。

■ ICTによらない発信

- ・施設内に子どもの活動の写真の掲示や作品の展示をしたり、園だより等の手紙の発行回数を増やす等の取り組みが多くみられた。
- ・地域のテレビ局に行事等を撮影・放送してもらおうとの回答もみられた。

取り組みにおける課題や対応

■ 保育者の負担増

- ・動画や写真の撮影や編集等に時間を要するとの回答が多くみられた。
- ・WEBシステムの扱いに慣れる必要があるとの回答もみられた。

■ 保護者からの理解や要望等

- ・SNSの使用の際に保護者の理解を得ることや、データが拡散されないようなルールの設定が必要であるとの回答がみられた。

Ⅱ. コロナ禍における新たな保育実践等に関する事項

3.保護者支援（子育て相談等）について工夫して取り組んでいることの有無

※「工夫して取り組んでいることがある」（n = 26）の回答の自由記述回答より

成功している、もしくは特徴的な取り組み内容

■ ICTの活用

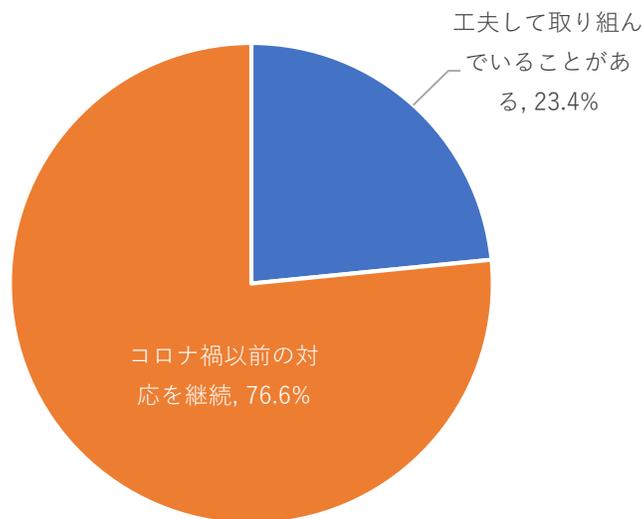
- ・メールやオンラインで相談を受け付けているとの回答がみられた。

■ その他の取り組み

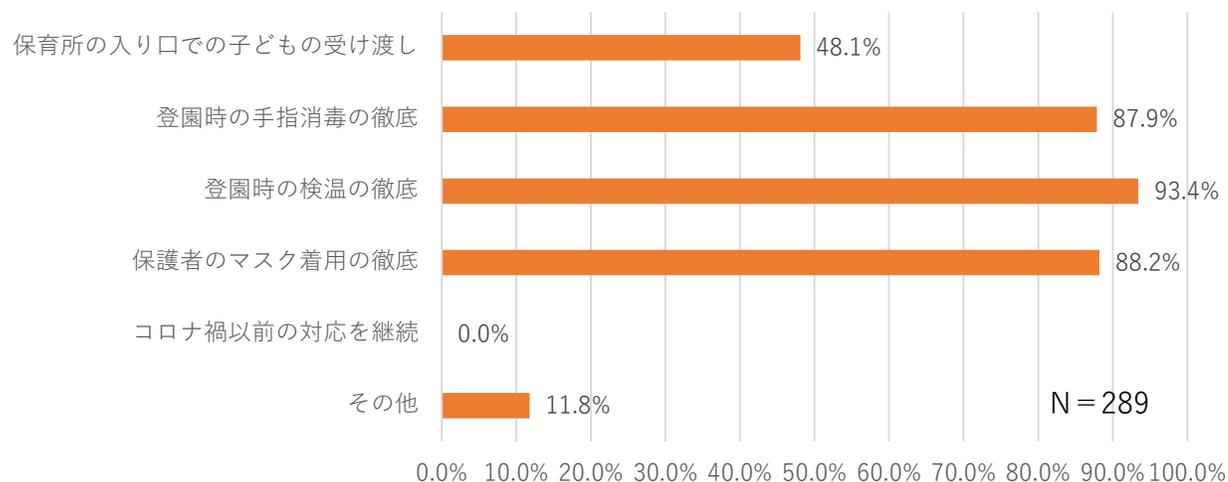
- ・電話での相談や、状況確認を行っているとの回答がみられた。
- ・個別で面談の機会を調整しているとの回答もみられた。

取り組みにおける課題や対応

- ・オンラインの取り組みのための職員研修が必要であるとの回答がみられた。
- ・面談をする際の場所を確保することが困難であるとの回答もみられた。

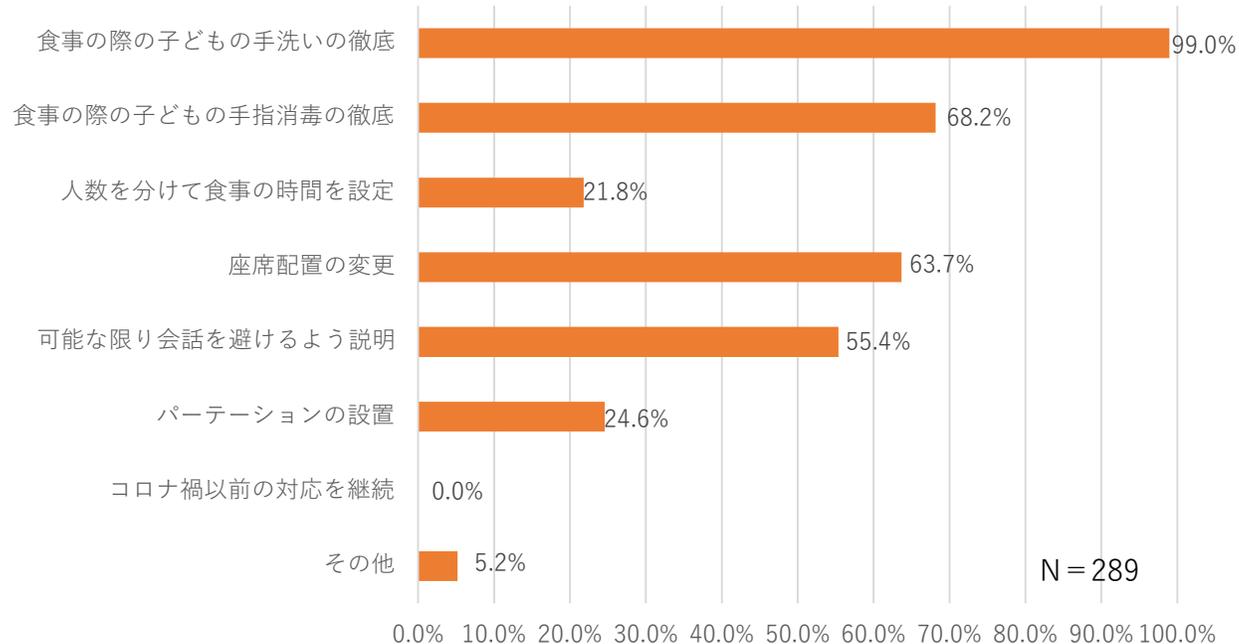


Ⅲ. コロナ禍における感染症対策に関する事項



1. 登園・降園時において取り組んでいる感染防止対策について

- 「登園時の手指消毒」「登園時の検温の徹底」「保護者のマスクの着用の徹底」の項目について、約9割が取り組んでいる。

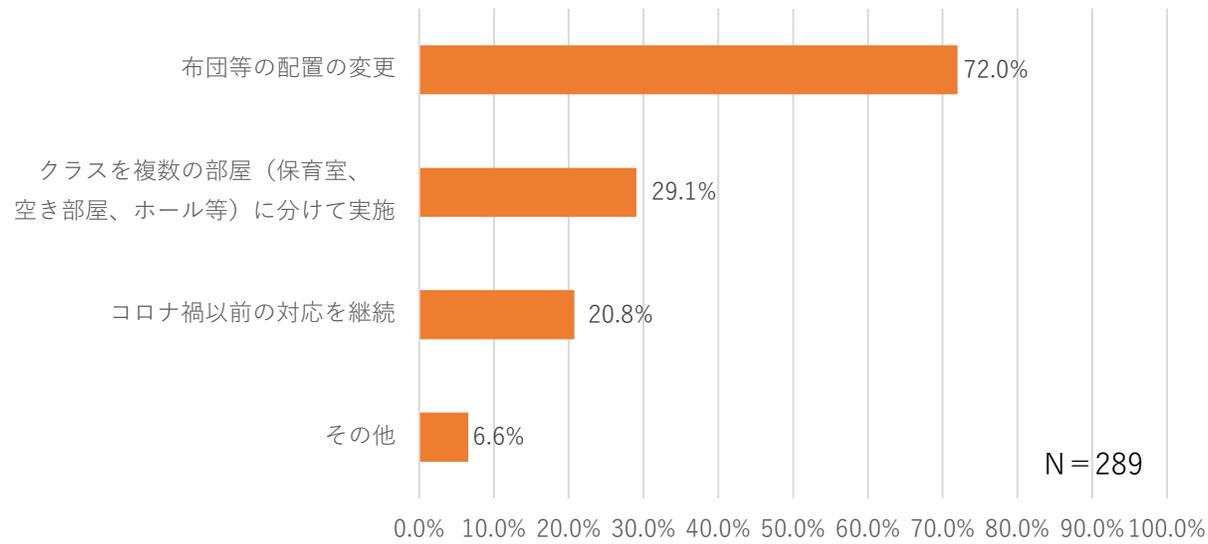


2. 食事（給食・おやつ等）において取り組んでいる感染症防止対策について

- 「食事の際の子どもの手洗いの徹底」の項目で非常に高い割合での取り組み状況であった。

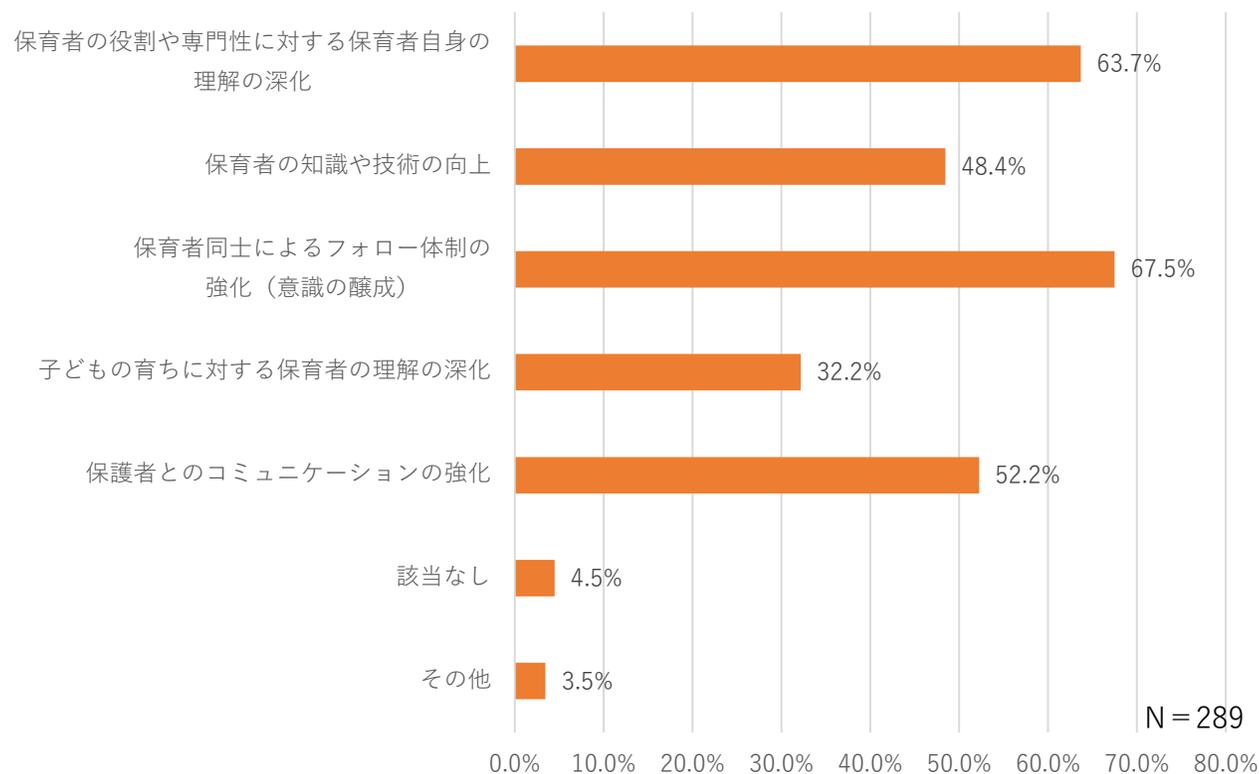
Ⅲ. コロナ禍における感染症対策に関する事項

3.午睡において取り組んでいる感染症防止対策について



- ・「布団等の配置の変更」（72.0%）が最も高い割合の取り組み状況であった。

IV. 新型コロナウイルス感染症への対応と経験が保育士等にもたらした効果に関する事項



- 「保育者同士によるフォロー体制強化（意識の醸成）」の回答が67.5%と最も多く、次いで「保育者の役割や専門性に対する保育者の理解の深化」（63.7%）、「保護者とのコミュニケーションの強化」（52.2%）の順であった。
- これまでに例のない状況への対応をとおして、保育者の専門性のさらなる向上や、職員や保護者との連携の強化等の効果が生じている。

V. 行事に関する事項

1.年間行事・イベントの実施状況について

- ・回答の傾向として、「入園式」や「運動会」「発表会」等、概ね施設内で実施可能なものであり、参加者が限定されている（限定できる）行事については、「内容を工夫して実施」している傾向が高い。
- ・一方で、「保護者懇談会」や「小学校との交流行事」「地域との交流行事」等、施設外に出向くものや、不特定多数の人と接触する可能性がある行事については、「中止」の傾向が高くなる。

2.特に工夫が成功したと考える取り組み

■ 入園式

- ・保護者の参加人数を限定したり、年齢別で実施する取り組みが多数みられた。
- ・園庭で実施したとの回答もみられた。

■ 運動会

- ・保護者の参加人数を制限したり、年齢別で実施する取り組みが多数みられた。
- ・運動会の様子を撮影し、DVDや写真を配布する取り組みもみられた。

■ 発表会

- ・保護者の人数の制限や、年齢別で実施する取り組みがみられた。
- ・発表の様子をWEB上でライブ配信する取り組みもみられた。

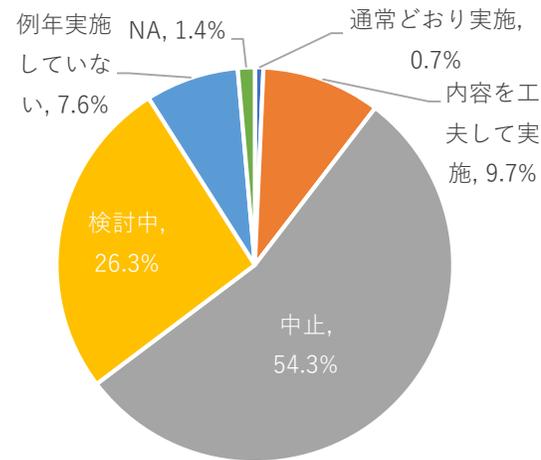
■ 遠足

- ・遠方に出向くのではなく、近隣の公園等に出かけるとの回答がみられた。
- ・園内に「手作り動物園」をつくって楽しんだとの回答もみられた。

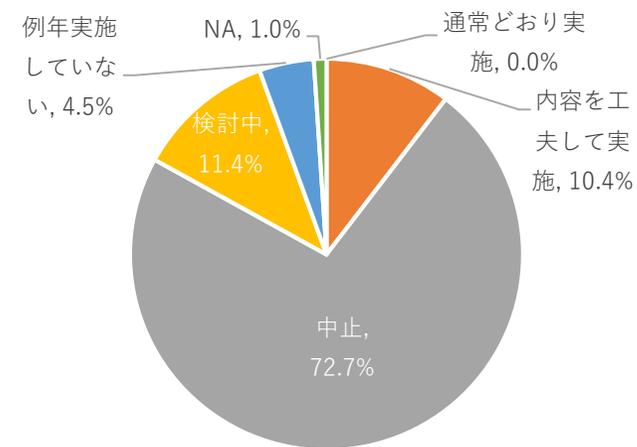
V. 行事に関する事項

3.特に大きいと考えた課題

- ・ コロナ禍においては、感染防止のためにいわゆる3密（密閉・密集・密接）を可能な限り避けることが求められており、行事の開催においては保護者の参加等を制限せざるを得ない状況があるとの回答が多くみられた。
- ・ また、この影響により、子どもの育ちの様子を保護者に伝える方法に苦慮していたり、保護者同士の関係の構築の機会の減少や、行事の実施方法の変更に対する保護者の理解等が課題として挙げられていた。
- ・ さらに、小学校や地域との交流等、外部との交流行事が子どもの情緒的な面の発達に重要な役割を果たしてきたことから、これらの行事を中止せざるを得ない状況を懸念している回答もみられ、今後の対応等が求められる部分である。



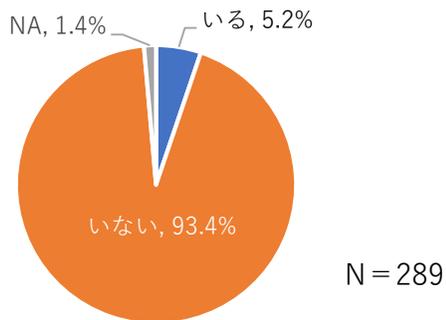
小学校との交流行事の実施状況



地域との交流行事の実施状況

VI. 虐待に関する事項

1. コロナ禍における不適切な養育や虐待が疑われるような子どもの有無



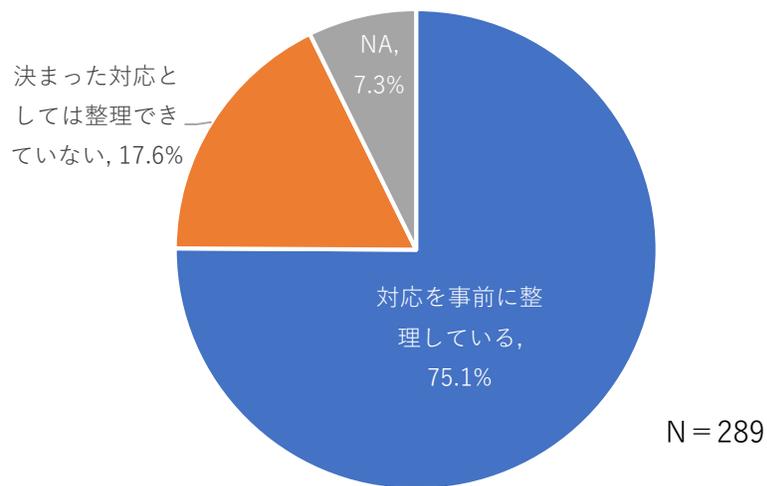
・コロナ禍において虐待等が疑われる子どもについて、「いない」とした回答が93.4%であり、「いる」とした回答は5.2%であった。



・「いる」と判断した理由については、「関係機関から情報の提供があった」が7件（46.7%）と最も多く、「不自然なあざやケガ、やけど等があった」も6件（40.0%）の回答がみられた。

VI. 虐待に関する事項

2.不適切な養育や虐待が疑われるような子供に対する支援や対応



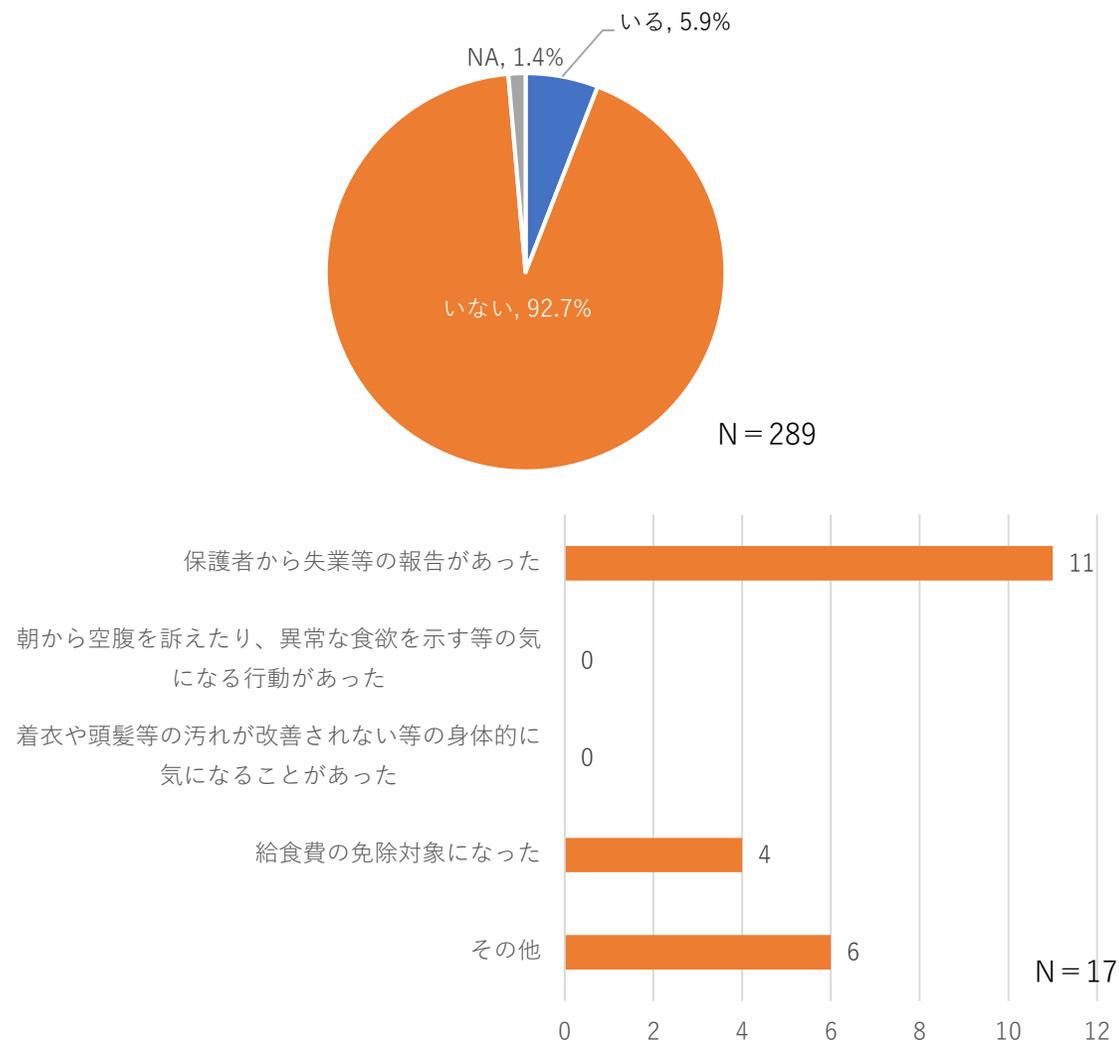
- ・虐待等が疑われる子どもが確認された際を想定して、「対応を事前に整理している」とした回答は75.1%（217件）であった。
- ・具体的には、「関係機関と情報を共有する」（88.9%）、「市町村行政に通告する」（82.9%）、「園内の全職員で情報を共有し、共通理解をはかる」（79.3%）が特に多い回答結果であった。

3.虐待等に関連した課題

- ・新型コロナウイルスに起因する雇用への影響により離職や勤務形態が変化するなど、家に籠りきりになって子育てをすることで、保護者の疲れやストレスが増加していることを指摘する回答があった。
- ・また、登園自粛や家庭保育の協力等で登園が減少するなど、これまでのように子どもの様子を保育所等で確認する機会がなくなり、早期発見・対応が難しくなっていること、さらに、具体的な支援に向けた対応もすぐには見つからない等の回答があった。

Ⅶ. 貧困に関する事項

1. コロナ禍における貧困状態に陥った（深刻化した）と思われる子どもの有無

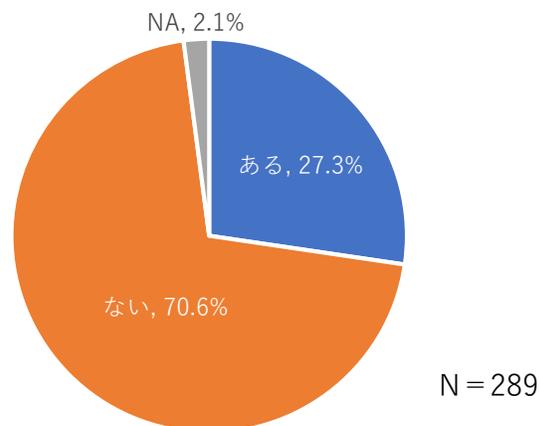


- ・ コロナ禍において貧困状態に陥ったと思われる子どもについて、「いない」とした回答が92.7%であり、「いる」とした回答は5.9%であった。
- ・ 「いる」と判断した理由については、「保護者から失業等の報告があった」が11件(64.7%)と最も多く、「給食費の免除対象になった」も4件(23.5%)みられた。
- ・ 支援や対応としては、保護者の状況についてきめ細やかな把握に努め、変化に気づいた時には必ず対応するなど、早期に気づき、対応している回答があった。

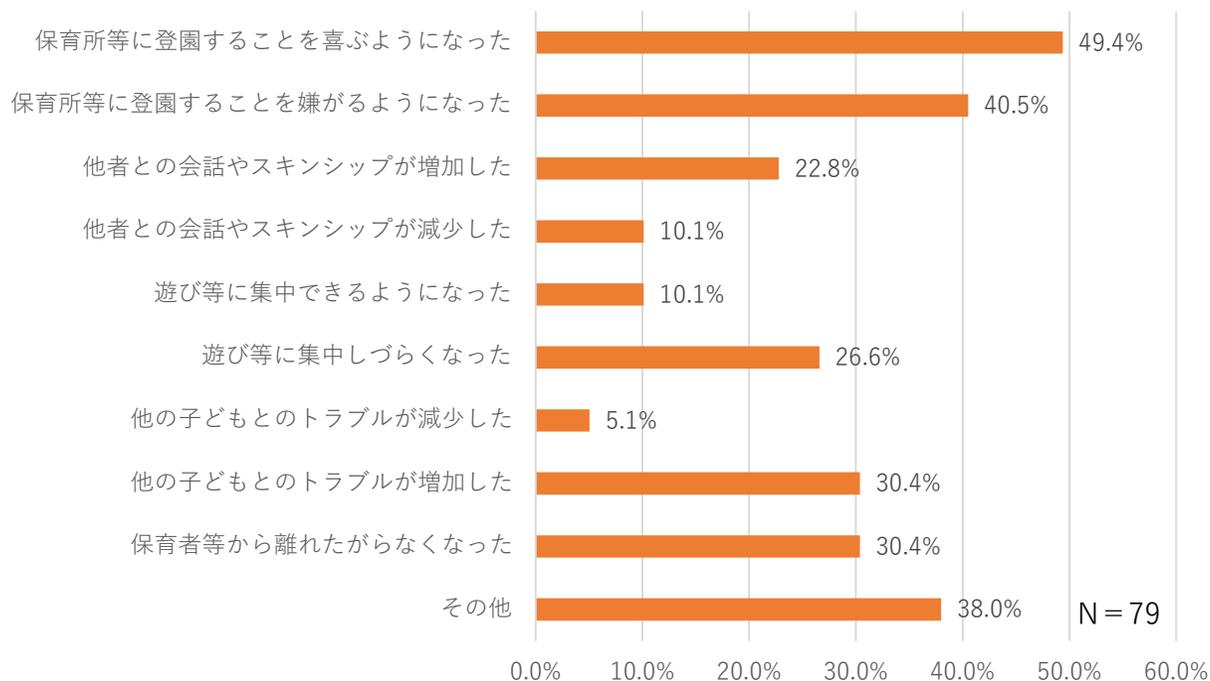
2. 貧困に関する課題内容

- ・ 経済的な困窮は人に知られたくないデリケートな課題でもあり、コロナに起因することなのか、コロナ以前からのものなのか、判断がつかないケースがあること、今のところ深刻な状況にはなっていないが、今後の状況によっては厳しい状況になることを示唆する回答などがあった。

VIII. 子どもの変化に関する事項



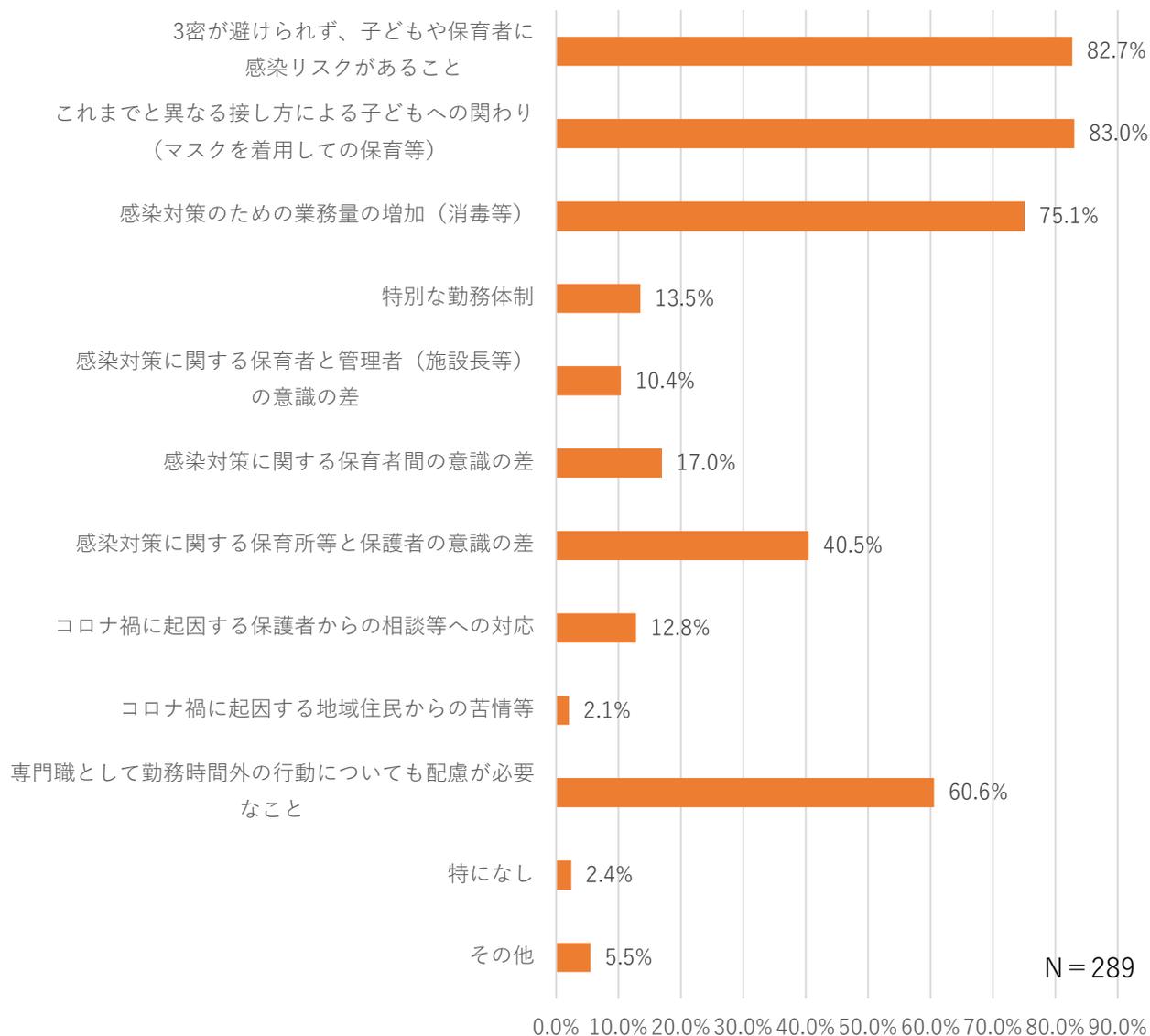
- ・虐待や貧困等を除き、子どもの様子に変化が「ある」とした回答は27.3%であった。



変化の内容

- ・「保育所に等に登園することを喜ぶようになった」の回答が49.4%と最も多い結果となった。
- ・一方で、「保育者等から離れたがらなくなった」（30.4%）、「遊び等に集中しづらくなった」（26.6%）等の回答もあり、日中の子どもが過ごす姿にも影響が生じているケースがある。

Ⅸ. 保育者の心身への影響に関する事項



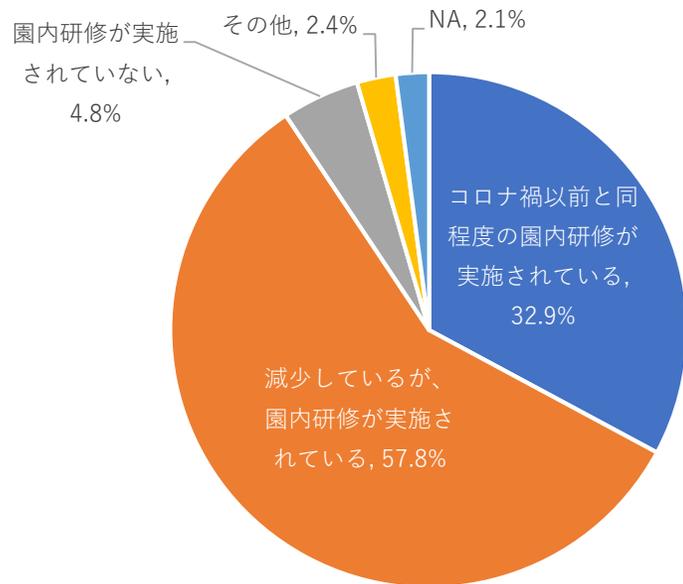
- 「これまでと異なる接し方による子どもへの関わり」の回答が83.0%と最も多く、次いで「3密が避けられず、子どもや保育者に感染リスクがあること」（82.7%）、「感染対策のための業務量の増加（消毒等）」（75.1%）であった。

X. 学習機会の確保に関する事項

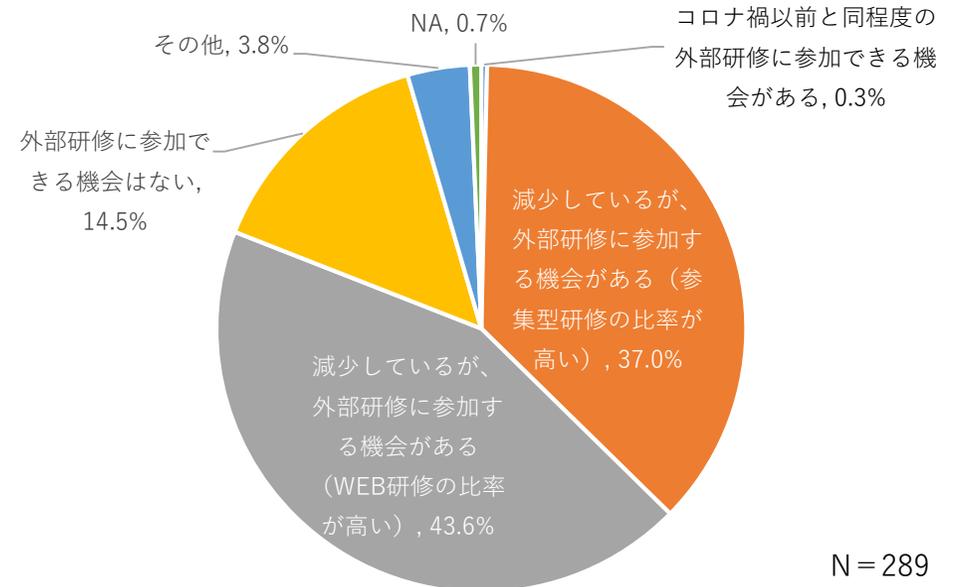
1. コロナ禍以前と比較した保育者の学習の機会の確保状況

- ・園内研修、外部研修ともに機会は減少しているものの、参加の機会があるとの回答が最多であった。
- ・外部研修においては、WEB研修の比率が高い傾向にある。

【園内研修】



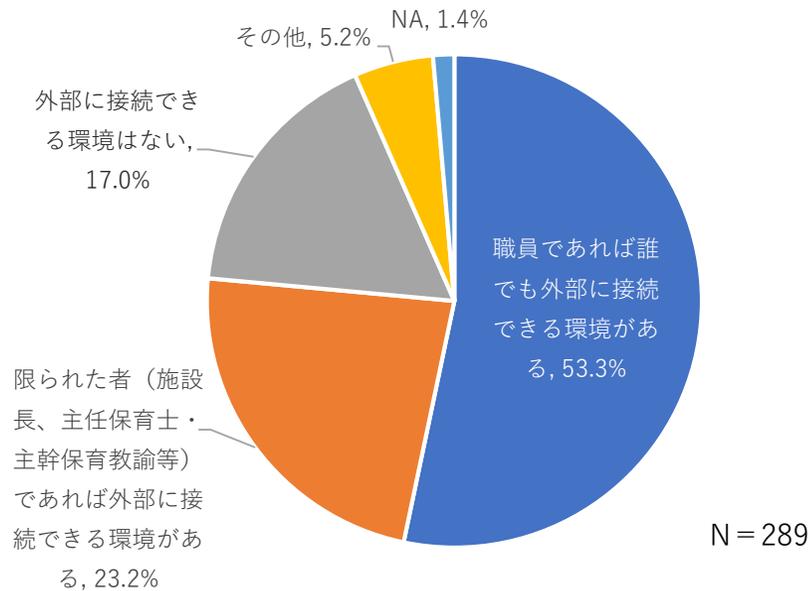
【外部研修】



X. 学習機会の確保に関する事項

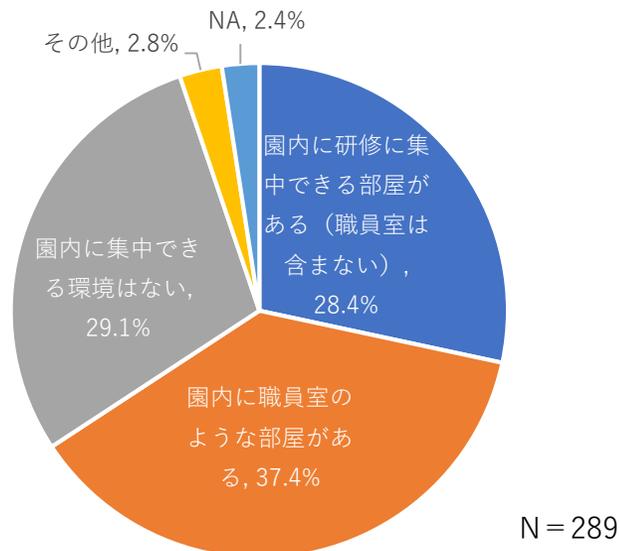
2. WEB研修会に参加するための環境（インターネット接続）の整備状況

- ・「職員であれば誰でも外部に接続できる環境がある」の回答が53.3%と最多である。
- ・「外部に接続できる環境はない」（17.0%）等、何らかの制限がある状況も確認された。



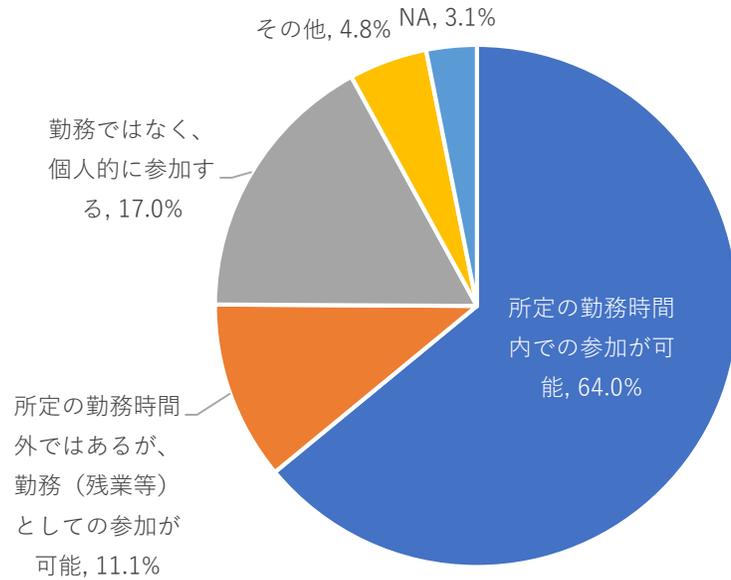
3. WEB研修会に参加するための場所の確保

- ・「園内に職員室のような部屋がある」の回答が37.4%と最も多かった。
- ・「園内に集中できる環境はない」（29.1%）等、WEB研修会への参加に適した場所の確保が困難な状況も明らかになった。



X. 学習機会の確保に関する事項

4. WEB研修会参加の取扱い

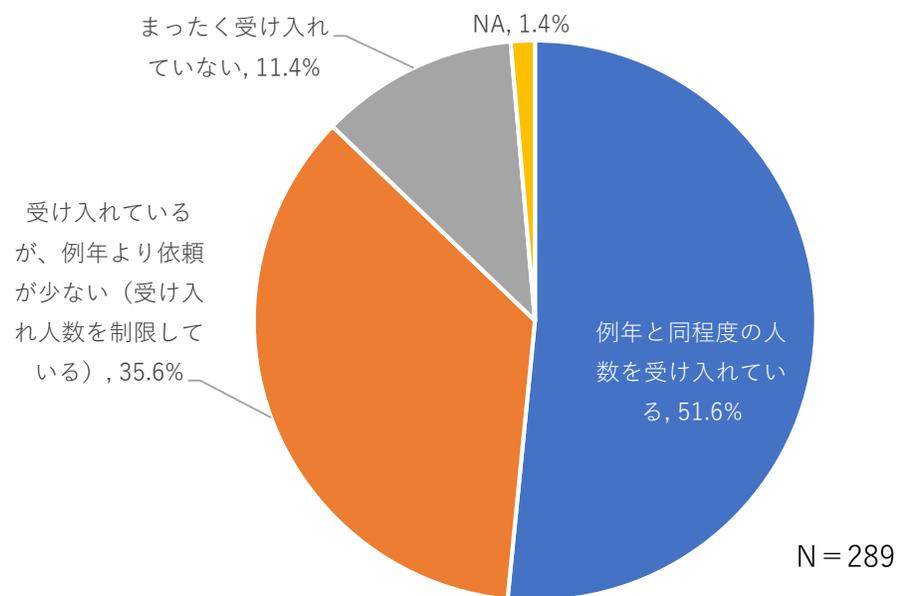


N = 289

- ・「所定の勤務時間内での参加が可能」の回答が64.0%と最も多かった。
- ・「勤務ではなく、個人的に参加する」（17.0%）の回答もあった。これについては、自己研鑽として参加することが考えられる一方で、保育所等においてWEB研修会への参加の取扱いが整理されていない可能性も考えられ、後者のケースについては状況が改善される必要がある。

XI. 実習生の受け入れに関する事項

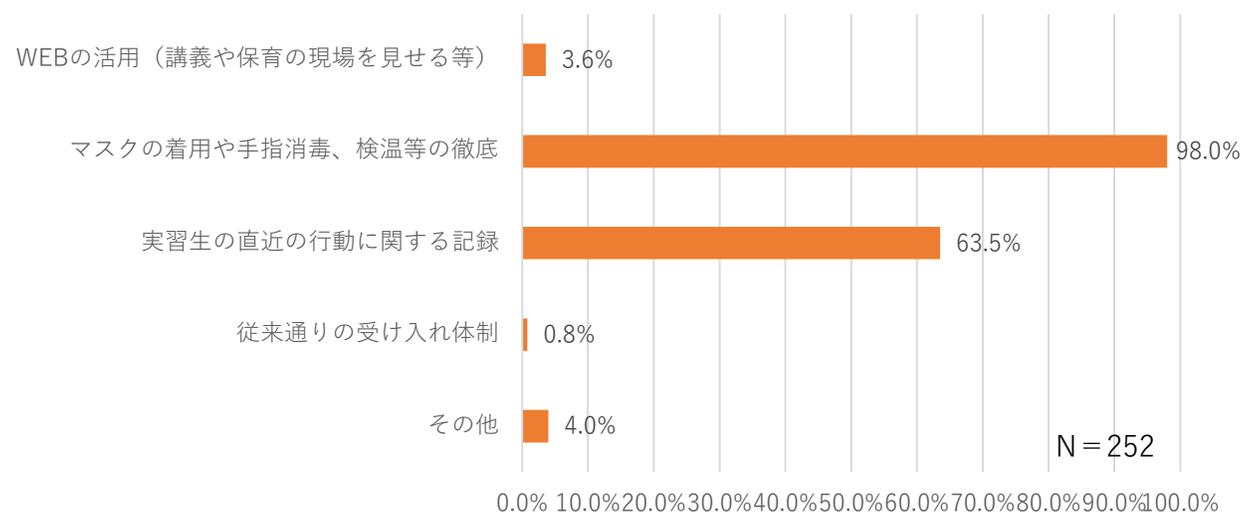
1. 本年度の実習生の受け入れ実施の有無



- 「例年と同程度の人数を受け入れている」の回答が51.6%と最も多く、「受け入れているが例年より依頼が少ない（受け入れ人数を制限している）」（35.6%）とあわせると、87.2%が受け入れている。

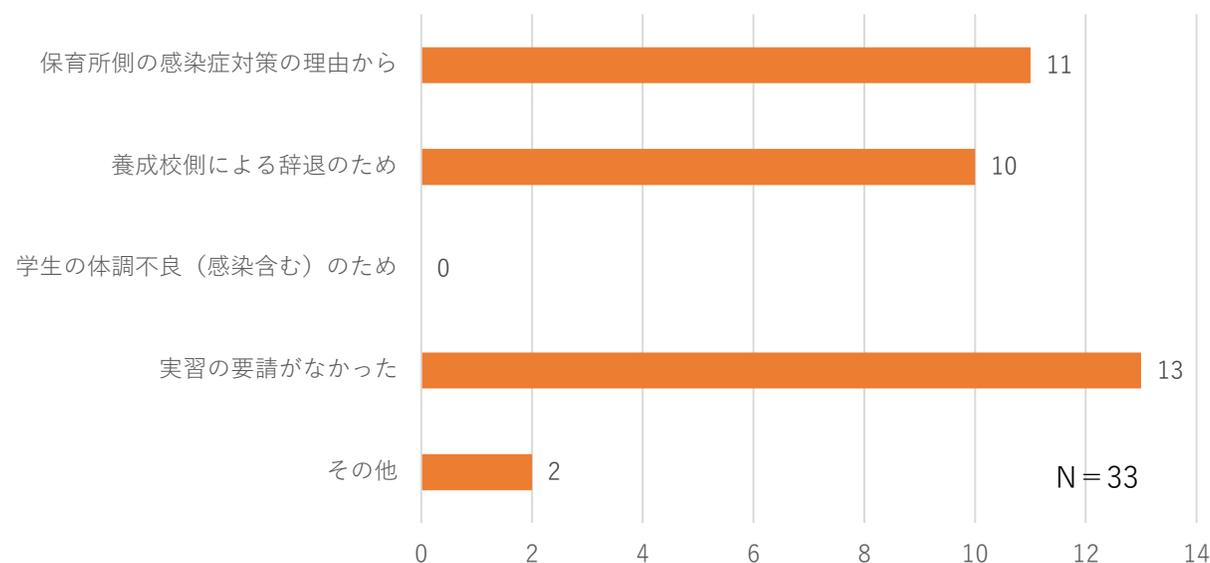
XI. 実習生の受け入れに関する事項

1. 本年度の実習生の受け入れ実施の有無



実習生を受け入れている場合の感染対策

- ・「マスクの着用や手指消毒、検温等の徹底」の回答が98.0%と最も多かった。
- ・「実習生の直近の行動に関する記録（63.5%）」も多数の回答があった。



実習生を受け入れていない場合の理由

- ・「実習の要請がなかった」の回答が13件（39.4%）と最も多い。